

特集②：第13回セーフティジャパンインストラクター競技大会

世界トップクラスのインストラクターが安全運転の技術と指導力を競う

今大会には10カ国から総勢71名のインストラクターが参加



開会式で挨拶を行う千葉英雄・本田技研工業(株)安全運転普及本部事務局長

9月13日、14日の両日、鈴鹿サーキット交通教育センター(三重県鈴鹿市)にて、「第13回セーフティジャパンインストラクター競技大会」が開催された(主催:本田技研工業(株)安全運転普及本部)。この大会は、安全運転普及の各分野で活躍するホンダの安全運転インストラクターの指導力ならびに運転技術の向上と均質化を図る場と機会の提供を通じて、世界に通用するインストラクターの育成を目的に1997年より開催されている。2008年以降の4年ぶりの開催となる今回は、国内から42名、海外はシンガポール、タ



イ、ベトナム、フィリピン、中国、インド、インドネシア、マレーシア、パキスタンの9カ国から29名、総勢71名が参加した。
選手は、グループA(国内交通教育センター)、グループB(本田技研工業(株)、本田技術研究所、ホンダエンジニアリング(株)、グループC(海外連結子会社・関連会社・ディストリビューター)に分かれて、安全運転の知識、技量、スキルをはかる競技や審査に取り組んだ。
インストラクターがホンダの安全運転普及活動を伝承
大会1日目は午前8時30分より開会式が行われ、大会運営委員長である千葉英雄・本田技研工業(株)安全運転普及本部事務局長が挨拶。続く「安全運転普及講話」では、千葉事務局長が「安全運転普及活動はホンダの企業文化です。一人ひとりが高い夢や目標、志を持ち、主体的に挑戦する姿であり、そうした心を育む活動でもあります。そして、インストラクターはその伝承者なのです。グループAの皆さんには、日本の安全運転教育を牽引してきた誇りと信念を持ち、指導力の向上をめざしてほしい。グループBの皆さんは、自動車メーカーの一員であることを自覚し、事業所における交通安全意識の啓蒙を図ることが求められています。グループCの皆さんには、ホンダの安全思想を「理解の上、それぞれの国情に応じて活動に取り組んでいただきたい」と、インストラクターへの期待を述べた。
競技は、10時20分より開始。この日は、二輪部門「ブレーキング」「コーススラローム」、四輪部門「フィギア」「ブレーキング回避」が行われた。また、競技だけでなく、安全運転の指導者としての幅広い知識と指導力を確認する「指導力審査」(グループA・B)や「筆記レポート」(グループC)にも取り組んだ。

大会2日目は、午前中に、二輪部門「一本橋」、四輪部門「コーススラローム」が行われ、安全運転の技術を競った。午後1時30分

各々のフィールドで大会の経験を活かす

各々のフィールドで大会の経験を活かす

からは、表彰式および閉会式が行われた。グループAの二輪・四輪・総合の3部門で第1位となった下浦紀世人さん(交通教育センターレインボー浜名湖)は「スキルなどで、お客様を前に模範走行をする時は絶対にミスできません。この大会は日頃の指導の延長線にあることを意識して臨んだことが好結果につながりました」と話す。またグループBでは、二輪部門第1位の鈴木龍太さん(本田技研工業(株)埼玉製作所)が「1位をめざして大会に臨んだので、この結果をうれしく思います。大会を通じて学んだことを後輩のインストラクターや従業員に伝えていきたい」、四輪部門第1位の久慈英士さん(本田技研工業(株)鈴鹿製作所)が「大会に向けた練習に取り組むことで、あらためて運転の難しさを再認識しました。そうしたことを若い従業員に理解してもらえようように活動していきたい」と感想を語った。
出場したインストラクターは、今後も各々のフィールドで指導力を磨き、「交通社会に参加するすべての人の安全をめざす」という大きな夢へのチャレンジを続けていくことだ

※フィギア=スムーズな操作・走行かつ正確な車両誘導技術を競う種目。縦7m×横7mのボックス内に設けられた3カ所の枠内に方向転換をしながら指定された前輪または後輪を入れ、タイムを競う

● 1st Safe Driving Global Meeting 安全運転普及活動の意義を各国と共有



「第13回セーフティジャパンインストラクター競技大会」に先立ち、9月12日、「1st Safe Driving Global Meeting」(主催:本田技研工業(株)安全運転普及本部)が鈴鹿サーキットで開催され、日本、シンガポール、タイ、ベトナム、フィリピン、中国、インド、インドネシア、パキスタンの9カ国からHondaの事業所の安全運転普及活動推進責任者20名が参加した。

冒頭では、千葉事務局長が「今回は、Hondaが取り組む安全運転普及活動の意義を各国の皆さんと共有するとともに、海外との関わり合いに対する私たちの考え方について意見交換を行いたいと思っています」と会議の目的を説明。その後、Hondaの安全運転普及活動の基本理念と歩み、タイやベトナムをはじめ各国で行われている安全運転普及活動の現状を発表し合った。そして、シンガポールをアジア大洋州地域の支援拠点としていくことや、インターネットを活用した情報共有のあり方など、今後の施策の方向性について意見を交換した。



四輪「コーススラローム」



四輪「フィギア」



二輪「コーススラローム」



二輪「ブレーキング」



二輪「一本橋」



四輪「ブレーキング回避」



グループB 四輪部門 第1位・久慈英士さん



グループB 二輪部門 第1位・鈴木龍太さん



グループA 二輪・四輪・総合部門 第1位・下浦紀世人さん

「指導力審査」ではインストラクター3名1組が、それぞれメインインストラクター・サブインストラクター・受講者役となり、規定の15分間で二輪車や四輪車の運転姿勢についての指導方法を競った(写真はグループA)

